

献堂50周年を祝う

カトリック紫原教会

紫原教会(主任司祭・山口好信神父)では11月28日(日)中野裕明司教を迎え、献堂50周年記念ミサをささげた。

紫原に教会ができたのは1971年7月のこと。それまで鴨池教会の管轄だった紫原1〜7丁目、日の出町、南新町に住む信者たちのことを配慮して同年4月から建設が始められてのことだった。献堂式は8月8日(土)で、初代主任司祭として永島泰蔵神父(1919〜2002年)が着任した。それから50年、教会は隣接するカリタス幼稚園とともに地域になくてはならない存在となっている。

その紫原教会の献堂50年の記念ミサは、8月にささげられる予定だったが、全国的にコロナウイルス感染者が多い時期だったため、11月に延期してこの日の実施となった。

献堂から50年を迎えるにあたって、紫原教会では外壁塗装や車椅子用のスロー

以前もマルタとマリアの話について書きましたが(2012年1月号)、今回は違う観点から読んでみましょう。

イエス様はマルタに「必要なことはただ一つだけである」と言われました(ルカ10・42)。ここで「一つ」と訳された言葉は原語では数詞の属格が使われていることから「必要は一人のものである」とも訳せます。つまり何が必要なかは人それぞれであるということですね。なぜこのような解釈がで

訃報

堂園みつ子修道女



純心聖母会の堂園みつ子修道女(いちき串木野市出身)が11月15日(月)、入院先の聖フランシスコ病院(長崎市)で帰天した。69

リエン修道女



ポルティユの御摂理修道女の MARIA・チャレス・

歳だった。短大時代に受洗し幼稚園に勤務、その後、同会に入会、海外宣教を希望し35年をブラジルで宣教した。

リエン修道女が12月3日(金)、入院先の鹿児島市のホスピスで帰天した。63歳だった。リエン修道女は郡山司教の招きにこたえ、同修道女会初の日本宣教の一員として2009年に来鹿、阿久根修道院を拠点に聖園老人ホームのお年寄りの世話やベトナムから研修に来ている若者たちの母親代わりとなった。その葬儀ミサは12月4日(土)ザビエル教会でささげられた。

屋久島教会にシドッチ資料館建設へ

教区責任委員会がNPO法人の申請に許可

中野裕明司教は、11月6日(土)午前、責任委員会を開き、NPO法人から申し入れのあった「屋久島教会敷地内にシドッチ資料館を建設すること」について話し合い、その申し出を受け入れることとした。

1708年10月11日、單身、屋久島恋泊(現屋久島町小島)に上陸したジョバンニ・パチスタ・シドッチ神父は、鎖国下にあった日本で宣教することを目標していた。しかしすぐに捕ら

きるかと言えば、続く「良い方」の「方」と訳された言葉にその理由があります。この言葉は原語では「相続分」や「分配・配布されるもの」、この他に「部分・全

《康由神父の聖書教室》

マルタとマリアの選択

体の一部を意味します。またこの言葉は詩編の二つの箇所でも使われています(詩編16・5、119・57)。ここでは主なる神の偉大さ、良さ、そして憐れみと恵

えられ、長崎を経て江戸のキリシタン屋敷に幽閉された。その間、シドッチ神父の尋問に当たった新井白石はシドッチ神父との交流から「西洋紀聞」を著し、これが後の鎖国政策に大きな影響を与えることになった。シドッチ神父は、幽閉中に、身の回りの世話をした長助、はるの夫婦に洗礼を授けた咎で1714年11月7日、獄死した。

教会建設に尽力したザベリオ宣教会のレンゾウ・コンタリーニ神父と親交があった屋久島町小島在住の作家・古居智子さん(「密航―最後の伴天連シドッチ―著者)が理事として名を連ね、このシドッチ資料館建設を申し入れてきたNPO法人屋久島エコフェスタでは、「教会敷地内にシドッチ神父記念館並びに付帯施設を設立することで、シドッチ神父の生涯とともに屋久島の歴史文化を広く発信し、魅力ある訪問スポットとして多くの人が集える場所を提供し、同時に開かれた教会のイメージを促進することにつなげたい」とし

42b) この「選んだ」という言葉にも注意が必要です。旧約聖書の伝統に基づけば神様がイスラエルの民を選び、彼等に御自分を現わされま

す。つまりイエス様は御自分に対するこたえ方に違いがあることをマルタに教え、それぞれのことえが真の幸福に繋がることを論じたところから、神様に向けて人にはこたえ方の違いがあります。そこには正誤も優劣はないのです。

こどものひろば
教区報では今月号から子どものための要理コーナー「こどものひろば」を始めます。こどもたちの信仰教育にお役立てください。(4面参照) 広報部

会と催し 1月

- 1日(土) 神の母聖マリア
- 2日(日) 主の公現
- 5日(水) 中野アカデミー・教区本部・19時
- 9日(日) 主の洗礼
- 11日(火) みことばを祈る集い・ザビエル教会・10時
- 12日(水) 中野アカデミー・教区本部・19時
- 16日(日) 年間第2主日
- 17日(月) 司祭大会・カテドラル・20日
- 18日(火) キリスト教一致祈禱週間・25日
- 22日(土) パストラルケア・教区本部・14時
- 23日(日) 青年会・鴨池教会・18時30分
- 23日(日) 年間第3主日(神のことばの主日)
- 25日(火) オリブの会及び共にこの道・教区本部・14時
- 30日(日) 年間第4主日

祈りの意向

- 【司教日程】1日カテドラル元日ミサ、5日中野アカデミー、12日中野アカデミー、17〜20日司祭大会、21日大口明光学園
- 【祈禱の使徒会】 皇 人類の真の友愛 日本教会 すべてのいのちを守る

奉献生活者のためのミサ

日時: 2月5日(土) 14時 場所: ザビエル教会
司式: 中野裕明司教、小隈憲士神父
当日は「日本26聖人殉教者の祝日」に当たりますから、殉教者のミサがささげられます。奉献生活の恵みの感謝と新しい召命の恵みを願う祈りを殉教者の取り次ぎを願いがらおささげたいと思います。

ミサ後は、修道女に小隈神父様がお話をしてくださることになります。どうぞ、皆様、心を合わせてお祈りください。

鹿児島カトリック教師の会集会



去る12月12日(日)午後3時から教区本部で、オンライン参加者を含めて7人で開催された。霧島神父による短い講話の後、自己紹介、これまでの教師の経験、教師の会に期待することなどを分かち合った。今後はより幅広く参加者を募りつつ、2か月に1度のペースで集まり、講話と分かち合いを中心とした活動をしていくことになった。次回の集会は2月13日(日)の予定。お問い合わせは kago.cath.kyoushi@gmail.com (担当霧島神父) まで。

教会紹介

加世田教会と支える人たち

―充実の班集会を実施―

南さつま市の最も交通量の多い地で、行き交う人々を静かに温かく見守るマリア像の佇む加世田教会(主任司祭・アントニオ鄭法鍾神父)。2006年に宣教75周年と献堂50周年の記念行事を盛大に終え、さらに2018年には同じ敷地に新しい教会が建てられ、郡山司教様を迎えて献堂記念ミサ、式典、祝賀会が行われました。

いずれの時も他教会の司祭方、シスター方、信徒の皆様方、また地域の方々の温かい協力あつてのことと感謝しています。現在の加世田教会は、少子高齢化の影響もあつて、日曜日のミサ参加者も、かつて40〜50人だったのが、今では30人前後となりました。幼い子供の笑い声も、泣き声も耳にすることが少なくなりました。そのような

な中で信徒一同、「希望、前進」を目標に信徒代表の今村早苗さんを中心に毎月、第2日曜日のミサ後「全員参加の班集会」を開いています。班集会は「みことばの分かち合い」の方法を使って行っています。その後、司牧評議会、第4日曜日は「ともにこの道を」と諸行事に取り組んでいます。「ともにこの道を」では枕崎教会の長野宏樹さんのアドバイスを受けて会を進めています。聖書朗読があり、それに対して各自の思いや考えを話します。他の人の思いや考えを知ること、聞くことで「ともにこの道を」への精神に一步でも近づけるのではと考えます。

教会離れがカトリック教会の大きな問題点として取り上げられている現在です。



が、加世田教会が誇りにできることを一つ述べたいと思います。妻の影響で夫が受洗、信者になった方が数多くいます。その夫たちが神父様とともに加世田教会の柱となつて、しっかりと教会を支え続けていることに大きな喜びを感じます。あたかもヨセフ様が幼きイエズス様やマリヤ様を支えられたように…です。【加世田教会 園山美代子】

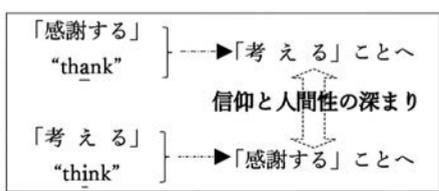


要理

私たちの信仰はカトリックですが、「カ」の字を抜いたら、トリックになりません！トリックとはいいたずら、冗談、そして(相手を騙すための悪い)たくらみといった意味があります。私たちの信仰がこのようにならないために必要な「カ」が「感謝する」の「か」と「考える」の「か」です。この二つが心の中に一杯になると私たちの心は自然と神様の「か」に向かいます。英語で考えるときは「thank」、「考える」は「think」です。この二つの中心には「愛」と「愛」があります。ローマ字読みをすればアイです。つまり心の中心に「愛」を置くことが私たちの信仰なのです。ではなぜ感謝することと考えることが大切なのでしょう。それは自分が愛されてきたことを悟

た。しかし当時は、そのことをあまり気にかけることはありませんでした。教師としてのお2人の働きは高く評価していただけに、お2人の立場の弱さを思いやる優しさのない自分が恥ずかしくなってきました。この無慈悲さは、わたしとお2人の間柄を「正規」と「非正規」という物差しによって区分けし、お2人を仲間外れにしていることに気づかないことから出てきました。「隠れた特権意識」といつていいかもしれませ

るためです。これにより人は誰かを真に愛することができません。カトリックの「愛」とは他の人を絶対的に肯定すること：誰かをのけ者にするのではなく、ここにいなくてもいいんだよと思えることです。このことは自分を絶対的に肯定すること：自分は生きていてもいいんだと思えることにながります。神様にとって「私」が善いものであるように「他の人」も同じように善いものです。ときとして「こんな自分なんて」と思えることがあ



格差に向き合うために 11月の20日から24日にかけて南日本新聞に、「明日は見えるか、かごしま非正規公務員」というタイトルの記事が5回にわたって連載されました。5つの記事を要約すると、以下のようになります。

- ①非正規公務員は、身分は公務員でも実態は派遣社員と同じ。雇止めされ、パート転換で賃金が下がる。
- ②生徒にとって同じ「先生」、求められる仕事も同じ、でも待遇に大きな格差。
- ③財政難で減少続ける正規職員、その穴埋めにされ

KJPP (鹿兒島正義と平和協議会) 通信 1月号

そこからは、(1)公務員の世界でも職員の非正規化が進み、安定雇用という雇用制度が崩壊したこと、(2)少数の富裕層への富の集中、(3)少数の富裕層と多くの貧困層という形の社会階層の二極化、(4)その二極化によ

に大きな格差」という見出しにハッとさせられました。わたしが定年退職した学校でも、書道と家庭科の教員が2人とも非正規であったからです。確かに2人の先生は、待遇面でわたしと大きな格差がありまし

が、持っている人、持っているものまで取り上げられる(「マタイ福音書13章12節」ではないですが、非正規教員と正規教員との待遇格差はますます大きくなり、その結果非正規教員たちの間に分裂といがみ合いが生じ、学校は殺伐としたものとなり、平和ではなくなってしまうことが予想されます。こうなると、学校はもう人間教育の場ではなく、子どもたちが学ぶべきところとはとてもいえないものとなってしまいま

す。このように考えますと、身の回りで進行している格差に対して無関心であることは、キリスト者として恥

ずべきことのように思えてきます。「何よりもまず、互いに心から愛し合いなさい。愛は多くの罪を覆うからです。」というペテロのことが心に響いてきます。「まずは互いに赦し合う

こと。全てはそこから始まる。」と受け取れます。「罪を覆う」の意味は、「罪を赦す」ということです。その真意は「罪を担い、重荷を取り除く」ところにあります。十字架の愛です。互いの弱さを担い合う愛が格差の溝を埋める力であることは確かです。(正平 協会員 上坪憲治)

聖書愛読運動「新約聖書通読コース」完走者 川端千鶴子修道女(イエスのカリタス修道女会 笠利修道院)、山頭信子修道女(純心聖母会川内修道院)、山城 充さん(枕崎教会)、重久知司 助祭(徳之島地区) ※12月20日現在

社会問題の分かち合い (毎月第3土曜日) 日時: 1月15日(土) 13時~16時 場所: 教区本部 内容: 原発・改憲・沖縄問題についての情報交換 その他